

プログラミング教育がスタート

新見市教育委員会 教育長

城井田 二郎



中山間地域は、地域の資源を生かした効果的な施策により、人口減少を悲観的にとらえるのではなく、幸福感もてる小さくても充実した町づくりを進めています。

新見市では、未来人材を育てようと市内全小中学校に外国語指導助手を配置し、国の教育課程特例校の指定を受け、小学校からの英語教育に取り組んできました。二〇一八年度からは小学校外国語活動及び外国語の授業を先行的に実施します。また、光ファイバー網などの情報通信基盤を活用した教育にも先進的に取り組んでいます。中学校では全生徒がタブレット端末を使って、自分に必要な情報を調べるなどしながら、ICT機器の基本操作や特性、情報モラルなどの知識を養うこと、さらには、電子黒板などの機器を使うことにより、より効果的な授業を実施しようとICT活用教育を進めてきました。さらに、二〇二〇年度から小学校での「プログラミング教育」が必修化されるのに伴い、ソフトバンクが主催するPepper社会貢献プログラム(ス

クールチャレンジ)に参加し、二〇一七年度から先行的な取組をはじめています。プログラミングに挑戦している児童生徒は、自分たちが創った筋書き通りに、人型ロボットPepperを動かすにはどうしたらよいかをグループで何度も話し合い、試行錯誤を繰り返しています。プログラミング教育を受ける児童生徒は、みんなとても真剣な表情で、目を輝かせながら取り組んでいます。これまでのICT活用教育を一步進め、児童生徒がコンピュータに自分が考えた動きをさせる実験を通じて、思考力や表現力、そしてコミュニケーション能力を高めることを目指しています。

IT、特にAIの発達により、人々の暮らしや社会のあり方は大きく変わろうとしています。将来を担う子どもたちには、自信をもって自分の人生を切り開き、よりよい社会を作り出していく素質や能力の一つとしてプログラミング的思考を身につけてほしいと願っています。